平成29年8月3日
横浜市公立大学法人評価委員会
資料　2－2

公立大学法人横浜市立大学の平成28年度年度計画に対する各委員評価一覧

平成28年度　年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	10	A	A	
			A	前年度受審した大学認証評価を受け、グローバル人材の育成を目指し、教育の向上を図った。
			A	
			A	
			A	ほぼすべての項目で計画、施策が実施されており、教育研究の質の向上の点では次期中期計画での更なる期待が出来る。
Ⅰ-1　教育に関する取組	10	A	A	
			A	YCUの特徴を明確にした学問分野を活かす教育体系の確立、優秀な学生の確保と教育のため、データサイエンス学部の新設と国際総合科学部の再編に向けた検討が行われた。
			A	
			A	
			A	
Ⅰ-1-(1)全学的な取組	10			
				３ポリシーに沿った教育の実現を目指し、カリキュラム満足度が81.6%の結果を得た。学位授与の基準を明確化し、公開した。
				時代の要請に応えた「データサイエンス学部」の設置決定や「起業家育成プログラム」の新設決定など、新しい教育への取り組みを評価する。今後の発展を期待したい。 アカデミックコンソーシアム事業や留学生受入促進のための学長裁量事業などで様々なプログラムを実施しているが、それにもかかわらず留学生比率が伸びないのは残念である。
Ⅰ-1-(2)学部教育に関する取組	31			
				国際総合科学部・医学部の連携強化による共通教養教育の充実の一環として、地域志向科目の全学部必修が開始された。海外フィールドワーク支援プログラムが、２番目に多い289名の参加を得、質・量とも向上した。医学部においては、国際認証基準を踏まえた医学教育の質的向上に向けた取り組みを進めている。一年生の殆どが実践的な看護英語を修得することができた。医師国家試験の諸対策を実施したところ、合格率96.6%、全国第４位で過去最高の結果を得た。
				ＰＥ定着に向けた種々の取組により、国際総合科学部でＰＥ単位取得率が上がったり、さらには「全国英語プレゼンテーションコンテスト」や「国際人道法模擬裁判の国内予選」など全国レベルの大会で結果を残す学生を輩出したことを評価する。 国家試験の受験者に対して引き続き丁寧な指導を行った結果、医師の国家試験合格率が全国で4位と過去10年間で最高となり、さらに看護師、保健師とも高い合格率を達成したことを評価する。 27年度評価で指摘事項として挙がっていた海外派遣プログラムへの参加者割合について、28年度も微増はしたが第2期中期計画の目標値15%の3分の2（9.4%）にとどまっていることは残念である。参加者増に向けて一層の努力を期待する。
Ⅰ-1-(3)大学院教育に関する取組	56			
				コースと研究科の連結による一貫した教育（５年で修士号取得が可能な制度）が進行し、軌道に乗りつつある。生命ナノシステム科学研究科では、学内の優秀な学生が確保でき、博士後期課程では企業研究者、外国人の志願があり、定員を満たすことができた。
				27年度評価で指摘事項として挙がっていた大学院生命ナノシステム研究科（前期・後期）及び生命医科学研究科（後期）の入学定員割れについて、28年度は生命ナノシステム研究科への学内推薦志願者や学外の企業研究者・外国人志願者のどちらも増加し、定員を満たすことができた。しかしながら生命医科学研究科はいまだ定員割れが続いているので、引き続き適正な学生数確保への努力を期待する。
Ⅰ-1-(4)学生支援に関する取組	65			
				就職ガイダンスの充実、キャリアサポーターの集いの実施、「内定者と就活生の集い」などにより、キャリアセンターが就職活動を支えている。バリアフリー支援室を設置し、専門のコーディネーターを配置するなど、障がいのある学生の修学支援にあたった。
Ⅰ-2　研究の推進に関する取組	74	A	A	
			A	先端医科学研究センターでは、文科省の先端研究基礎基盤事業（共用プラットフォーム形成支援プログラアム）に採択された。これにより同センターが有する高い解析技術を学内外に提供する体制が整うとともに、産学連携や優れた技術者の養成を進めることができる。学長裁量による「学術的研究推進事業」を新たに創設、18件の研究プロジェクトを採択した。
			A	
			A	
			A	

平成28年度　年度計画（項目）			頁	自己評価	委員評価	コメント
		Ⅰ-2-(1)研究水準及び研究の成果等に関する取組	74			
						「若手・女性研究者支援プロジェクト」と「産学連携等支援プロジェクト」を新たに創設した。
		Ⅰ-2-(2)研究実施体制等の整備に関する取組	79			
						先端医科学センターで、文科省の先端研究基礎基板事業（共用プラットフォーム形成支援プログラム）に採択されたことを評価する。産学連携の促進や優れた研究者の人材育成が推進されることを期待する。
	Ⅰ-3　教育研究の実施体制に関する取組		81	A	A	
					A	
					A	27年度評価で指摘事項として挙がっていた大学機関別認証評価において教員の「研究活動の状況を把握する全学的な体制が十分でない」という点については、28年度でリサーチマップへの入力更新を徹底し、学内研究費の配分を受ける条件とするなどの対策により改善された。
					A	
					A	
Ⅱ　附属２病院（附属病院及び附属市民総合医療センター）に関する目標を達成するための取組			82	A	A	
					A	
					A	
					A	
					A	決算は引き続き厳しい結果となったが、医療安全、政策医療の推進、高度医療の提供、人材育成については期待された取組が実施出来た。
	Ⅱ-1　医療分野・医療提供等に関する取組		82	A	A	
					S	周術期口腔機能管理の推進を目的とした横浜市及び横浜市歯科医師会とＹＣＵの三者による包括連携協定を締結した。精神疾患を合併する身体救急医療体制確保事業」を本格稼働した。【附属病院】では「がん遺伝子検査外来」の設立、未診断疾患イニシアチブ（ＩＲＵＤ）の診療拠点病院に認定された。手術支援ロボットの実績が認められ、保険請求が可能となった。【センター病院】では「がん診療総合支援室」の本格的運用及びがん患者への相談支援の充実を図った。
					A	政策的医療の推進、高度医療の提供、地域の医療機関との連携強化という点で、着実に計画を実行し、2病院の求められる役割をきちんと提供している。
					A	
					A	
	Ⅱ-2　医療人材の育成等に関する取組		95	S	S	国家試験合格率の結果は、教育成果として十分評価できる。
					S	学生の学習環境の改善を行った。臨床研修医の採用において、前年度に引き続き２病院ともに「基本プログラム」のフルマッチを達成した。看護師の進学支援、コメディカルスタッフの学会・研究会等への参加支援、e－ラーニングを活用した研修を行った。育児と診療の両立支援を図った。
					A	初期臨床研修医採用において、2病院とも「基本プログラム」のフルマッチを達成し、さらにセンター病院は「産科・小児科プログラム」を含むフルマッチを5年連続で達成したのは、評価できる。ただ、計画自体がマッチング率100％を目指すとなっているので、評価としてはAとした。 医師事務作業補助者の増員、入院センターの開設などにより引き続き医師・看護師等の業務負担軽減が図られたことを評価する。また、女性医療スタッフの復職支援や働きやすい環境整備がすすめられたことも評価する。しかし一方で、27年度評価で指摘事項として挙がっていた「看護部門を除き事務、コメディカル両部門の超過勤務時間数が大幅増加」という点については、28年度も取り組みが行われたが、2病院のコメディカル部門及びセンター病院の事務部門でさらに超勤時間数が増加したのは遺憾である。いくら超勤時間削減やノー残業デーを呼びかけられても、一人当たりの仕事量が増えれば超勤時間削減は難しい。人件費比率との兼ね合いを見つつ、各人別の仕事量や仕事の配分、人員配置の見直しなど職員の適正なワークライフバランスの確保に更なる取り組みを期待する。
					S	研修医のマッチングの成績が大変良かったことはそれなりに評価できるが、「研修医の育成」そのものの評価でないことに注意する必要がある。他の多くの面では達成度「Sの水準」と評価できる。
					S	
	Ⅱ-3　医療安全管理体制・病院運営等に関する取組		106	A	A	
					A	医療安全文化の醸成と医療の質向上の取組を推進した。入院に関する受付、調整窓口を一元化した「入院サポートコーナー」（セ・「入院センター）を設置・運用した他、効率的な病床運用に努めた。各種の視点から診療コストの削減に取り組んだ結果、両病院とも診療収益を伸ばすことができたが、人件費の増加、高額な医薬品や輸血製材、高額な診療材料の使用により、赤字決算となった。
					A	2病院とも病床利用率及び医薬材料費比率について計画目標値を達成できず、経常損失額は27年度よりさらに膨らみ、大学部門の経常利益は増加したにもかかわらず、法人全体の経常損失額が27年度の2倍超になったことは残念である。27年度評価での指摘事項がさらに悪化したわけで、第3期中期計画においてきちんと黒字化への道筋を作り着実に実施されることを強く期待する。
					A	
					A	

平成28年度　年度計画（項目）	頁	自己評価	委員評価	コメント
Ⅲ　法人の経営に関する目標を達成するための取組	123	A	AorB	努力は認められるものの単年度の赤字額があまりのも大きいため、自戒を求めることとするか。
			A	
			A	
			A	
			A	コンプライアンス面ではまだ根付いていない点もあるが、その真因を理解し、具体的な策を打っており、今後の効果が期待される。 ２病院の赤字についてもその要因は把握が出来ており、今後必要な投資と経費コントロールのバランスが求められる。
Ⅲ-1　業務運営の改善に関する取組	123	A	A	
			A	
			A	
			A	
			A	
Ⅲ-1-(1)ガバナンス及びコンプライアンスの強化など運営の改善に関する取組	123			
				コンプライアンスについては講話や研修という一方向の周知だけでなく、教職員一丸となってどうしたら違反をなくし人権を尊重する組織風土が確立できるのかを考え取り組むことが必要と思われる。そういう意味では、28年度に導入された理事長ダイレクトメール（教職員から理事長に直接提言できる仕組み）は評価でき、有効に利用されることを期待する。
Ⅲ-1-(2)人材育成・人事制度に関する取組	126			
				県内大学初、公立大学としては大阪市立大に続く二番目の「イクボス宣言」をしたこと、「女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づく横浜市立大学行動計画」を策定したことを高く評価する。今後はそれに基づき、全教職員のワーク・ライフ・バランスの向上が推進されることを期待する。
Ⅲ-1-(3)大学の発展に向けた整備等に関する取組	130			
Ⅲ-1-(4)情報の管理・発信に関する取組	135			
				27年度から発行開始した卒業生向け広報誌、ホームカミングデー、同窓会との連携など、卒業生との連携強化に引き続き取り組んでいる。特に学生の留学リポート特集を掲載することで「ＹＣＵ留学サポート奨学金」への寄付件数を増やしたことは評価できる。ただ漠然とした寄付のお願いでなく、目的意識を持った寄付金集めが肝要と考える。
Ⅲ-2　財務内容の改善に関する取組	140	B	B	
			B	
			B	両病院とも病床利用率及び医薬材料費比率について計画目標値を達成できず、経常損失額は27年度よりさらに膨らみ、大学部門の経常利益は増加したにもかかわらず、法人全体の経常損失額が27年度の2倍超になったことは残念である。27年度評価での指摘事項がさらに悪化したわけで、第3期中期計画においてきちんと黒字化への道筋を作り着実に実施されることを強く期待する（再掲）。
			B	附属二病院はいずれも急性期を担っていて、現時点での診療報酬制度上の困難さを否めないが、病院群を成して機器の共同購入を試みるなど支出の面で「より一層」の工夫が望まれる。
			B	
Ⅲ-2-(1)運営交付金に関する取組	140			評価項目名を「財務内容の改善」とでも変えたらどうか。

平成28年度　年度計画（項目）			頁	自己評価	委員評価	コメント
		Ⅲ-2-(2)自己収入の拡充に関する取組	140			
		Ⅲ-2-(3)経営の効率化に関する取組	143			
Ⅳ　自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組			145	A	A	
					A	
					A	
					A	
					A	充分に実施されている。